

「初年次プロジェクト演習」(第1, 第2クォーター)での遠隔授業の取り組み¹

はじめに

社会共創学部では2020年度、新型コロナ禍を受けて教育、学生支援の側面で様々な取り組みを行ったが、その一例として産業マネジメント学科1年次の必修科目である授業「初年次プロジェクト演習」の事例を取り上げる。

社会共創学部は、2016年度に設置され、自然科学や社会科学の枠を超えた文理融合型の研究・教育を展開し、政策策定者や利害関係者など地域ステークホルダーの参画による協働を通じた研究・教育を行っている。この協働の手法は、個々の現実的課題の解決に必要な知見や技術を創出するためのプロジェクト・テーマを協働して設定し、その成果を実社会で活用するために、研究者・学生と地域ステークホルダーが継続して学び合い、協力して取り組むものである。

本学部では専門教育科目を基礎力育成科目群、実践力育成科目群、課題解決思考力育成科目群、専門力育成科目群、学位認定科目群、自己デザイン科目の6つに区分しているが、それらのうちの実践力育成科目群はアクティブ・ラーニングの手法を原則としている。本稿で取り上げる「初年次プロジェクト演習」は、大学入学直後の第1クォーターから初めて取り組む実践力育成科目であり、企業等の地域ステークホルダーからの課題に70名を超える学生がグループワークを繰り返しながら取り組むアクティブ・ラーニング科目である。大学生生活に馴染んでいない新入生が入学直後に取り組む、講義を中心としない、学外者が直接的にも参画する授業であるため、遠隔化にあたって取り組みづらいものであったことから、特にこの科目を取り上げることとした。

1. 科目の概要 (例年の対面授業の場合)

「初年次プロジェクト演習」は、社会共創学部産業マネジメント学科1回生を対象として前学期(第1および第2クォーター)に開講する学科必修科目である。学科学生約70名を2クラスに分け、さらにそれぞれのクラスについて6人程度のチームを6つ編成し、学生から見れば前半課

題、後半課題の2つの「課題」に取り組むものである。担当教員は産業マネジメント学科の4名の専任教員である。

この科目は産業マネジメント学科学生が入学後最初に受講するもので、企業等から提示された具体的な「課題」に対して、学生どうしのグループワークを通じて解決策を検討し、課題提示者の前でそれをプレゼンテーションするものである。ここでいう「課題」とは、地域ステークホルダーである企業や自治体等が実際に直面している課題であり、例えば「〇〇銀行がお客様に選ばれるには?チャネルを選択し、そのチャネルに必要なものを考えてください」といったものである。

図表1に示したように、課題のテーマ設定については、直前まで高校生だった新入生が課題に取り組む第1クォーターには大学入学前の日常生活の中でも多少は接点を持っていたであろうBtoC(Business to Consumer)の側面を持つテーマを、そして第2クォーターには難易度を上げてBtoB(Business to Business)の側面を持つテーマを課題として提示していただいている。

図表1 課題と学生のチーム編成

時期	課題のテーマ	課題提示企業等	学生
第1クォーター	BtoC	A社	6人程度の6チーム
		B社	〃
第2クォーター	BtoB	C社	6人程度の6チーム
		D社	〃

この授業の目的は、実社会、実際の経営に対する興味・関心を喚起するとともに、直面した課題等に主体的に取り組む、様々な専門教育科目を今後学修することの重要性を実感させることにある。すなわち、提示された課題に対する解決策を課題提示者の前で直接提案するというプロジェクトを実行することを通じて、「社会で働くために必要な力」と「自分の力」とのギャップを認識させるための科目である。

例年の対面授業時の具体的な授業の流れは図表2の通りである。「全体」は学科1回生全体の70名以上の学生が、「課題ごと」は課題提示企業ごとに35名以上の学生がひと

¹執筆担当(授業担当):岡本直之, 崔英靖, 園田雅江, 山口信夫

図表 2 各週の授業内容

	第1クォーター	第2クォーター
第1週	ガイダンス (全体)	C社から課題提示 (全体)
第2週	A社から課題提示 (全体)	D社から課題提示 (全体)
第3週	B社から課題提示 (全体)	学生によるグループワーク (全体)
第4週	学生によるグループワーク (全体)	学生から各社に中間提案 (課題ごと)
第5週	学生から各社に中間提案 (課題ごと)	学生によるグループワーク (全体)
第6週	学生によるグループワーク (全体)	学生から各社に最終提案 (課題ごと)
第7週	学生から各社に最終提案 (課題ごと)	講義・総括 (全体)
第8週	振り返りと関連講義 (全体)	

図表 3 2019年度授業評価アンケートの集計結果より

Q12 この授業1回につき、平均してどの程度の時間外学習（レポートの作成や授業に関する学生同士での打合せ、授業に関連する準備作業なども含みます）をしましたか。【必須入力】

	回答数	回答率	
2時間以上	18	48.65%	■
1.5~2時間	9	24.32%	■
1~1.5時間	9	24.32%	■
30分~1時間	0	0.00%	
30分未満	1	2.70%	
していない	0	0.00%	

つの教室に集まる形で実施している。また、企業等からの課題提示者が課題提示の際や中間提案、最終提案の際に教室で授業に参加する形で実施している。

課題に対しては学科学生全体を半分ずつの2クラスに分かれて取り組むため、A社の課題に取り組むチームとB社の課題に取り組むチームとに分かれるが、自分の所属しない側のチームがどのような課題に取り組むのかを知る機会を与えるためにも、両社の課題提示を聞くことができるよう第2週と第3週とに分け、学科生全体が集まる中で各社からそれぞれの課題を提示していただいている。

第4週には教室に集合してグループワークを行うとともに、ロジカル・シンキングやフィールド調査の進め方、注意事項等に関する講義を受けることとなる。そして第5週には学生がA社、B社それぞれの課題ごとのクラスに分かれ、チームごとに課題提示者の前で中間提案のプレゼンテーションを行う。それに対して、各課題提示者から疑問点や改善点の指摘を受けることで、授業時間内のグループワークだけでは提案内容が稚拙で時間外学習が必要であることを自覚することとなる。第6週には最終提案に向けたグループワークを進め、第7週に最終提案をすることとなる。

最終提案でも中間提案と同様に課題提示者の前でプレゼンテーションを行い、疑問点や改善点の指摘を受けるとともに、評価できる点などの指摘も受け、各提案内容について課題提示者から順位付け等の評価も受ける。また各クラ

ス内で学生相互に提案を評価し、学生投票の上位チームを表彰するなどしている。

第8週に前半の振り返りやグループワークの進め方の講義を行った後、第2クォーターからは、「経営入門」など経営学に関する学修もある程度進んでいることから、BtoB (Business to Business) の側面を持つテーマをC社、D社から課題として提示していただいている。その後の授業の進行は第1クォーターと同様のサイクルとしている。

この授業の特徴は、社会のリアルな課題に対して、学生によるグループワークを通じて提案を行うところにある。学生自らが当事者としてPDCAサイクルを回す必要が生じるとともに、授業時間外の学修を自ずと必要とする仕組みとしている。図表3にもあるように、社会共創学部における授業評価アンケートの結果において例年、時間外学習の時間が長い科目となっている。

なお、「初年次プロジェクト演習」では従来から補助的にMoodleを活用しているが、教員と学生とのやり取りには基本的にG Suite for Educationを利用している。産業マネジメント学科では教員および学生全員にG Suite for Educationのアカウントを配付しているため、そこで付与されるメールアドレスに基づいたメーリングリストを利用して「初年次プロジェクト演習」の授業に関する連絡を配信したり、Google Formsを活用してアンケートや授業課題の送受信に活用したりしている。

なお、この授業を実施する準備段階として、担当教員は

前年度中に以下のようなことを行っている(図表4)。

図表4 前年度中の授業準備の大まかな流れ

前年度 11月～12月頃	課題提示企業の選定, 依頼の開始
前年度1月	課題提示企業との日程, 課題内容の調整開始
前年度2月	課題提示の日程, 課題内容の仮確定
前年度3月	FSP研究会 ² を交えた事前研修および課題内容の再調整

2. 遠隔授業化を受けた対応

先述の通り, この科目は講義形式で実施する部分は非常に少なく, 学生によるグループワークを中心とした, 学外者も交えた実践的な授業科目であるため, 対面授業と同等の学習効果を得られるような遠隔授業の実施方法を検討するには時間を要した。特に, 2020年度当初はどこかの段階で, 例えば第2クォーターになれば対面授業を実施できるかもしれないとの期待があり, また第1クォーターは教職員相互や外部の課題提示企業等を交えた対面での打ち合わせができない状況下で, 授業の目的を崩さずにどのように授業構成を変更すべきかについて検討, 調整することには大変苦慮した。そして授業期間に入り前学期全体の遠隔授業化が決定した後も, 学外の課題提示企業等との調整も必要のため, 例年ならば第2週目に行う課題提示に至るまでにかかなりの時間を要した。

なお, 対面授業を実施していた従来から, Moodle, G Suite for Educationといったオンライン・ツールを併用し

ていたが, 遠隔授業化した2020年度は各ツールの利用方法に変化があった。Moodleについては従来補助的に利用していたが, 今年度はこの科目のポータル的な位置づけとし, メールによる大量の連絡に埋もれることなく, また使用する多様なツールの存在を意識させることなく, 各種動画やファイル, フォーム, 連絡事項への総合窓口という形で利用した。なお, 動画については, Moodleへの直接的な掲載が容量の問題から制限されたため, 認証が必要でかつYouTubeよりも動画ファイルのダウンロードが困難だと思われる方法としてGoogle Drive上にファイルとして設置し, 動画ファイルへのリンクをMoodleに掲載する方法を多くの場面で利用した(図表5)。

図表5 利用したオンライン・ツール

従来から 利用して いた機能	G Suite for Education	メール フォーム
	修学支援システム	メッセージ
	Moodle	フォーム機能 アナウンスメント機能
特に追加 的に利用 した機能	G Suite for Education	ドライブ
	Moodle	リンク機能 (Google Driveへ) 課題機能 フィードバック機能 活動完了オプション機能

2020年度の「初年次プロジェクト演習」を開講するにあたって, 全学での決定事項を受けた対応や選択した授業実施方法を時間軸に沿ってまとめたものが, 以下の図表6である。

図表6 2020年度の授業準備, 実施段階での対応状況

日付	事項
前年度 11月～2月	例年通り課題提示企業4社を選定, 依頼を進め, 課題内容の仮確定に至っていた(図表4参照)。
3月11日	FSP研究会を交えた事前研修および課題内容の再調整を予定していたが, 東京からの研修講師派遣ができなくなり対面での研修を中止。
3月30日	4月21日までの休講が決定(全学)。4月22日に対面授業を開始できることを前提とし, 課題提示企業数を減らさず実施することを計画した。
3月31日	課題提示企業等から授業に対面参加いただけない状況も想定しつつ, 4社と日程および課題の提示方法(対面か録画か等)の再調整を開始。
4月6日	新入生向け行事として2020年度新入生に対する学科ガイダンスを対面で実施。欠席者を除く全員に「初年次プロジェクト演習」用のテキストを配付できた。また, G Suite for Educationのアカウント(および初期パスワード)を配付できた(G Suiteの利用方法等はオンラインで案内)。
4月7日	Google Formを利用して2020年度入学生も含めた情報環境(PCの保有, ネット環境など)の調査を実施。
4月8日	第1クォーター期間(6月10日まで)の授業を遠隔授業(教室で授業を行わず, ネット配信の授業とする)ことが決定(全学)。

²一般社団法人Future Skills Project研究会。研究と実践を通じて「産」「学」に共通した課題を議論することを目的として設立された研究会。(http://www.benesse.co.jp/univ/fsp/)

4月10日	担当教員側で、Google Meet(ビデオ会議)、Google Chat、掲示板の授業への活用を検討。新入生どうしのコミュニケーションが不足する中でフリートークできる場所を試行的に開設。
4月15日	学生間のコミュニケーションを促すためにも新入生セミナーのクラス単位でGoogle Chatのチャットルームを開設。新入生セミナーの各クラス担当教員(学生生活担当教員)も参加できる環境を整えた。
4月16日	課題提示企業から、当初計画していた授業日程を2週間遅らせても対応が可能である旨の回答を得た。 修学支援システムを通じて、「初年次プロジェクト演習」を遠隔授業Aのうちの非同期(蓄積)型を主に利用して開講する旨の方針を学生に通知。修学支援システムからのメッセージを毎日確認することに加えて、Moodle上の科目ページを確認するよう指示した。
4月28日	休講期間終了後の第1週目として、遠隔授業を試行。Google Meet上に担当教員と学生とが対話できる場を設定するとともに、うまく参加できない学生を考慮してYouTube Liveにて同時限定配信した。 この時点では、学生どうしのグループワークの場をどのようなツールで確保すればいいのかが課題であった。また、オンライン環境が整っていない学生や、非同期としたために曜日・時限を開けておくという意識を強く持っていない学生が多かったためか、参加した学生はそれほど多くはなかった。 授業の内容や進め方についての学生への伝達手段としては主にMoodleを、学生とのコミュニケーション手段としてはGoogle Meet等のG Suite for Educationの機能を用いることを学生に通知した。 オンラインによる学生のグループワークの困難さを考慮して、課題提示企業を2社に絞ることとした。また、第2クォーターから部分的にでも対面授業が可能になるかもしれないと考えて、課題提示から最終提案までの流れは第1クォーター中の開始を見送るとともに、すべて第2クォーターに実施することとした。 その結果、例年であれば各学生から見て前半、後半で2つの課題に取り組むところであるが、今年度は1つの課題に取り組むこととなった。
5月7日	テキストに掲載されている事前アンケートに対する回答をMoodle上で送信するよう指示していたが、未回答者が15%程度いたため各種の連絡手段を通じて回答を促した。例年も回答はオンラインツール(Google Form等)で提出することとしているが、対面授業での回答率は概ね100%であるのに対して今年度は低かったため、締切を数日間延長し、その結果、最終的には全員からの回答を回収できた。
5月12日	休講期間終了後の第2週目として、中間提案、最終提案等の今後の授業の進め方についてオンラインで紹介するために、昨年度までに収録していた授業の様態を編集し、動画ファイルをGoogle Drive上に置き、Moodle上にリンクを掲載した。
5月18日	「新型コロナウイルス対策に関する学長メッセージについて(第4報)」が発出され、第2クォーターからは遠隔授業を積極的に実施するとともに、感染防御対策を徹底しながら対面型授業を実施することができる可能性が方針として示された。ただ、対面授業実施を可能とする条件に対して、この科目が必修科目であるという点では適合する可能性が高いものの、70名以上の受講者がいること、学生どうしのグループワークを伴うこと、学外の企業関係者の来訪も前提としていること等から、この科目は第2クォーター中も対面授業の実施を見送り、課題提示、グループワーク、中間提案、最終提案のすべてを遠隔で実施することとした。
5月19日	学生どうしがオンラインでグループワークができる環境を確保するために、各チーム単位でGoogle Chatのチャットルームを設定し、利用方法の解説PDFファイルや解説動画をMoodle上に掲載した。また自己紹介等をチャットルームに書き込むことを課題とした。
5月26日	企業等からの課題に取り組むにあたって知っておくべきこと等をまとめた動画ファイルをGoogle Drive上に置き、Moodle上にリンクを掲載した。
5月27日 5月29日	担当教員が課題提示企業2社を訪問し、それぞれで課題の提示をビデオ収録した。それらについて教員側でスライドを合成する等の動画編集を行った後、各社の担当者に動画のチェックを依頼して、課題提示動画を作成した。
6月2日	例年であれば、授業内で紹介しているロジカル・シンキングやフィールド調査の進め方、注意事項等に関する講義について、昨年度の授業を収録したビデオを編集・加工した動画ファイルをGoogle Drive上に置き、Moodle上にリンクを掲載した。
6月9日	プレゼンテーション、クリティカル・シンキング、議論の発散と収束などについて、昨年度の授業を収録したビデオを編集・加工した動画ファイルをGoogle Drive上に置き、Moodle上にリンクを掲載した。
6月16日	企業からの課題提示の週を迎えた。例年の対面授業であれば4月の第1回授業時に提出させている秘密保持同意書をMoodleで作成、提出させた(企業からの課題には各社の社内限定の情報、社外秘資料が含まれるため、例年は紙に署名・捺印をしたものを提出させている)。 秘密保持同意書を提出した(Moodleで完了にチェックが入った)学生のみを対象に、2社からの課題動画を提供し課題動画に対するコメント、意気込み等の書き込みを課題としてMoodle上で提出させた(これらコメント等は例年と同様、匿名化して各課題提示企業にフィードバックした)。

	<p>また、中間提案、最終提案に向けたグループワークを各チームで始めるよう指示した。学生が実際にグループワークに用いたコミュニケーション・ツールとしては、担当教員側で用意した Google Meet や Google Chat の他、LINE や Zoom も活用していたようである。</p> <p>なお、各チームがオンラインでグループワークをすることの困難さを想定し、中間提案までの週数を例年よりも多く確保し、課題提示の4週間後とした。なお徐々に学生がオンラインでのグループワークに習熟すると考え、最終提案は例年通り中間提案の2週間後とした(図表2参照)。</p> <p>また、例年であれば課題提示者の前でプレゼンテーションを行うが、学生にチームの提案をまとめた動画を作成させファイルとして提出させることが困難であると考えた。そのため中間提案の段階では実演を伴うプレゼンテーションではなく PowerPoint 等のスライドファイルでの提出にとどめることとした。また、最終提案については音声等を含めたプレゼンテーションのファイルを提出させることとした。</p>
7月14日	<p>中間提案のスライドファイルの提出を締め切ったところ、全てのチームが期限内に提出した。これらのファイルを取りまとめ、課題提示企業にメールで送信し、コメント等のフィードバックをいただいた。フィードバックの内容については翌週までに学生に Moodle 上で閲覧可能な状態にし、最終提案に向けて各チームで改善するよう指示した。</p>
7月28日	<p>最終提案のビデオファイル(mp4形式)の提出期限として締め切ったところ全てのチームが期限内に提出した。Moodleのファイルサイズの制限(250MB)やプレゼンテーションの時間制限(10分以内)も守りつつ、PowerPointスライドに音声を録音したファイルを各チームが作成するなど、ITリテラシーの高さを感じさせるものであった。</p>
8月4日	<p>最終提案についての学生投票を実施するとともに、各課題提示企業からのフィードバックを Moodle 上で閲覧可能にした。また、教科書に掲載されている事後アンケートについて、回答を Google Form で送信するよう指示した。学生投票の結果については翌週8月11日までに閲覧可能な状態にして、今学期の授業を終了とした。</p>

3. 遠隔授業化を経験して

授業を遠隔化するにあたって救いとなったこととして、昨年度まで基本的にすべての授業回を録画していた点を挙げることができる。記録として授業を取録していたことから、講義部分を編集して遠隔授業の動画に再利用することができたり、中間提案、最終提案の様子を編集して紹介することで、対面よりもより難易度が高いであろうオンラインでのプレゼンテーションをあらかじめ新入生にイメージさせることができた。これらにより、遠隔授業の準備が多少なりともスムーズにできた点は救いであった。

また、2020年度の授業評価アンケートの結果を見る限り、例年と大きな違いは無かった。先述の時間外学習の時間についても、図表7に示すとおり授業1回につき2時間

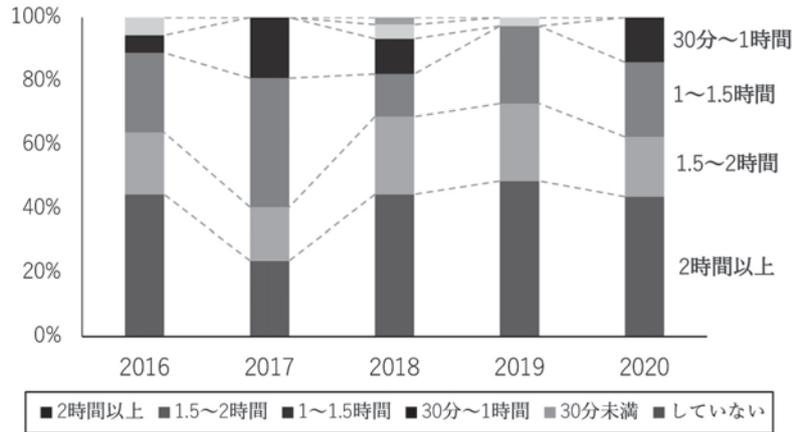
以上の時間外学習に取り組んでいるとの回答が40%を超えており、この点は図表8に示すとおりこの科目を開設した2016年以降概ね一貫している。授業を遠隔化したことで、今年度は新入生である学生どうしてもほぼ対面できない状況下でグループワークやプレゼンテーションを実施しているが、このアンケート結果を見ても、積極的に時間外学習の時間を確保したことがわかる。最低限のコミュニケーション・ツールについては担当教員側で提供したが、これら以外のツールをICTに長けた学生が率先して活用することで、チーム内で活発なコミュニケーションを行い、グループワークが成立したものと思われる。

ただし、授業評価アンケートの「この授業は、自分自身の学習効果を高めたり実社会での行動をより良くしたりするものとして、満足できましたか」という項目に対する回

図表7 2020年度授業評価アンケート結果：授業時間外学習時間

Q14 この授業1回につき、平均してどの程度の時間外学習(レポートの作成や授業に関する学生同士での打合せ、授業に関連する準備作業なども含みます)をしましたか。【必須入力】			
	回答数	回答率	
2時間以上	28	43.75%	■
1.5~2時間	12	18.75%	■
1~1.5時間	15	23.44%	■
30分~1時間	9	14.06%	■
30分未満	0	0.00%	
していない	0	0.00%	

図表 8 授業評価アンケート結果：授業時間外学習時間の推移



答は例年とやや異なっていた。遠隔授業を実施した今年度は、図表 9 に示すとおりピークが「ややそう思う」にある。図表 10 で示しているように 2016 年度以降一貫して「そう思う」「強くそう思う」にピークがあったのに対して、今年度はピークが低い位置に移動している。この授業の目的が、実社会、実際の経営に対する興味・関心を喚起するとともに、直面した課題等に主体的に取り組み、様々な専門

教育科目を今後学修することの重要性を実感させることにある点から考えると、この問いに対しては「そう思う」以上の回答にピークがあることを期待したいところであるが、残念ながら今回は評価が低下した。その原因の詳細な分析はできていないが、授業を遠隔化したこと以上に、学生が取り組む課題を 2 つから 1 つに減少させたことが影響しているのかもしれない。

図表 9 2020 年度授業評価アンケート結果：学習効果、実社会での行動

Q8 この授業は、自分自身の学習効果を高めたり実社会での行動をより良くしたりするものとして、満足できましたか。【必須入力】

	回答数	回答率	
強くそう思う	14	21.88%	■
そう思う	20	31.25%	■
ややそう思う	23	35.94%	■
あまりそう思わない	6	9.38%	■
そう思わない	0	0.00%	
全くそう思わない	1	1.56%	

図表 10 授業評価アンケート結果：学習効果、実社会での行動、満足度の回答の推移

